

ヒカリノコリドー

高架下の特徴である、「車の交通量の多さ・天候に左右されにくい・リニアで連続的な空間」という、この場所特有のポテンシャルを活かしながら、高架下が抱える問題点に焦点を当て計画した。

計画地は多様な文化が混在する池袋で、多くの人と車が往来するスクランブルの結節点となるBエリアを選定した。

具体的なシステムとしては、大量の車が通過する道路面の振動で発電を行う「発電所」としての機能を付加する。

更に発電した電力で人工照明を使った水耕栽培を高架下の空間で行う。給排水と人工照明を組み込んだアクリル製の栽培 Pod を高架下に吊り下げ、水の入った栽培 Pod の中で野菜や花などを水耕栽培で生産する「植物工場」として機能させる。

この一連の「発電 + 水耕栽培システム」により、再生エネルギーの創出・CO2削減・排気ガスの浄化作用など、都市空間が抱える問題点の改善が期待できる施設となる。

また、夜になると表情は一変し、人工照明に照らされた色鮮やかな植物たちが街灯の役割を果たし、池袋の街を行き交う人々と街路空間を鮮やかに照らしてくれる。今まで薄暗かった高架下の空間であるにもかかわらず、その様子は星空のようでもあり、まるで天の川のような「ヒカリノコリドー」として都市空間の新たな風景を創出する。

貴重な都市のストック空間を活かした持続可能なシステムが、池袋から都心の首都高へと繋がっていくことで、高架下の空間が生まれ変わることを期待している。

